横 浜 市 記 者 発 表 資 料

令和２年７月30日
教育委員会事務局
教育課程推進室

「令和元年度 横浜市学力･学習状況調査」の結果

本市では、毎年、市立の全小中学校及び義務教育学校の児童生徒約27万人を対象に、学力・学習状況調査と生活･学習意識調査を行っています。令和元年度の調査の結果につきまして、「横浜市学力･学習状況調査 報告書」としてまとめました。この調査の結果を、児童生徒、家庭と学校で共有し、児童生徒の学力向上や教員の授業改善等に役立てます。教育委員会では市の教育施策や学校への支援に活用していきます。「横浜市学力・学習状況調査 報告書」は、市立図書館等で閲覧することができます。

１ 調査の実施概要

調査対象	小学校 １、２年	小学校 ３～６年	中学校 １、２年	中学校 ３年
調査実施日	令和２年２月６、７日		令和２年２月20日	令和元年11月７日
調査教科	国語・算数 （２教科）	国語・社会・算数・理科 （４教科）	国語・社会・数学・理科 外国語（５教科）	国語・社会・数学・理科 外国語（５教科）

※ 生活・学習意識調査は全学年で実施

２ 調査の目的

児童生徒、家庭

各教科の学習内容の理解や観点ごとの力を振り返り、何ができていて何が課題かを把握し、学習改善に生かします。

学校

集計結果をまとめた「横浜市学力・学習状況調査 分析チャート」（令和２年４月に各学校へ配付）から学校や小中一貫教育推進ブロックの特徴や課題を把握し、授業改善をはじめとした学校の運営改善に反映させます。

教育委員会

各学校や小中一貫教育推進ブロックが、調査結果を基にした授業改善や年間指導計画の修正等を行えるよう支援する際の資料等に生かします。

３ 今回の調査の結果から

※「横浜市学力･学習状況調査 報告書」からの一部抜粋

（１）「教科別調査結果」より

小学校６年・中学校３年の各教科の「基礎･基本問題」と「活用問題」の調査結果（平均正答率）は、次のとおりです。

学 年	小学校第６学年・義務教育学校第６学年								中学校第３学年・義務教育学校第９学年									
教 科	国語		社会		算数		理科		国語		社会		数学		理科		外国語	
基礎･基本/活用	基	活	基	活	基	活	基	活	基	活	基	活	基	活	基	活	基	活
平均正答率（%）	70	64	72	66	64	50	66	57	60	55	64	46	70	38	62	39	64	28

※ 小学校では、「基礎･基本問題」の想定正答率はおおむね65～75%、「活用問題」はおおむね55～65%としています。

中学校では、「基礎･基本問題」の想定正答率はおおむね65～75%、「活用問題」はおおむね50～60%としています。

裏面あり

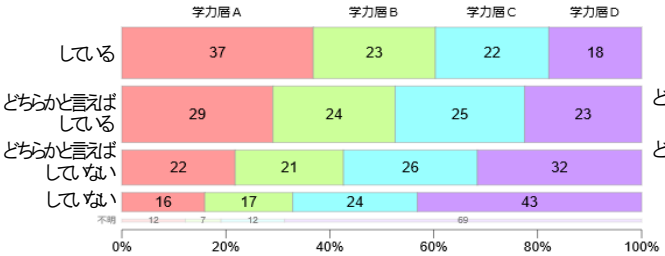
（2）「学力・学習状況調査と生活・学習意識調査とのクロス集計結果」より

※　帯グラフの縦幅は、人数の大小を示す。（帯の縦幅が太いほうが、細い方よりも人数が多い。）
※　学力層とは調査の対象となる児童生徒数を正答率で４分割したもの。「学力層Ａ」が上位。

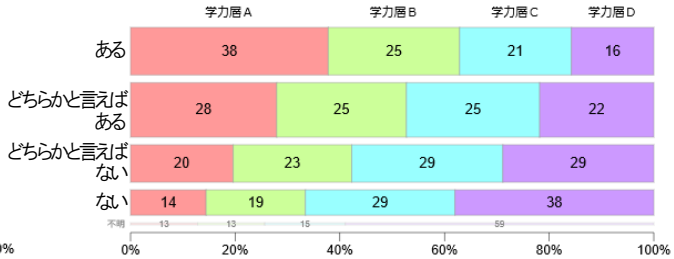
疑問をもち、考えたり話し合ったりすることと学力には関わりが見られます。

小学校　「社会科の授業では、みんなが疑問に思ったことについて考えたり話し合ったりしていますか」×「学力層」
中学校　「社会科の授業を受けて、新たな疑問をもったり、より深く考えたりすることがありますか」×「学力層」

小学校（社会科）



中学校（社会科）



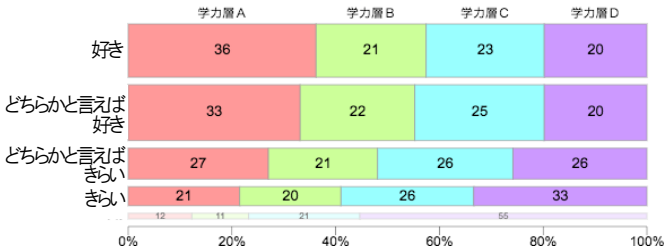
どの教科等においても、児童生徒が問いをもつことを大切にした授業を行っています。調査項目のなかから、そのことに関わるものについて、社会科を例にして取り上げました。小学校では、社会科の授業で、疑問に思ったことについて考えたり話し合ったりしていると回答した児童は、他の選択肢を回答した児童よりも学力層Ａの割合が高いことが分かります。また、中学校では、社会科の授業を受けて、新たな疑問をもったり、より深く考えたりすることがあると回答した生徒は、他の選択肢を回答した生徒よりも学力層Ａの割合が高いことが分かります。

このことから、疑問に思ったことについて考えたり話し合ったりしている、新たな疑問をもったり、より深く考えたりすることがあると認識していることと、学力には関わりがあると言えます。児童生徒が問いをもち、それを解決するために調べたり、話し合ったりすることを通して、育成を目指す資質・能力を育むことができるよう、授業改善をしていくことが大切であると考えます。

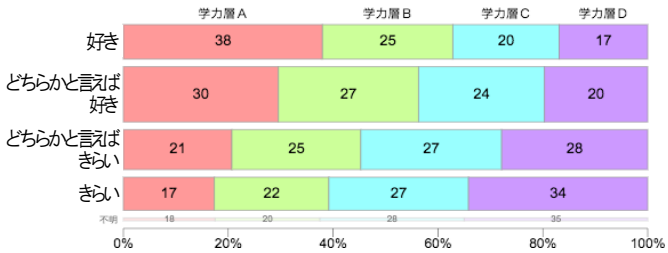
学校図書館に行くことが好きであることと学力には関わりが見られます。

小・中学校　「学校図書館に行くことが好きですか」×「学力層」

小学校（国語科）



中学校（国語科）



学校図書館に行くことが「好き」と回答した児童生徒は、他の選択肢を回答した児童生徒よりも、学力層Ａの割合が高く、特に「きらい」と回答した児童生徒よりも、小学校では 15 ポイント、中学校では 21 ポイント高いことが分かります。これは、全ての学年、教科でも同様の傾向が見られました。

このことから、学校図書館に行くことが好きであることと、各教科の学力には関わりがあると言えます。学校図書館は、読書センター機能、学習センター機能、情報センター機能の役割があります。学校図書館に行くことに好意的な児童生徒であるほど、読書に親しむだけでなく、情報を活用する頻度が多くなり、結果的に学力にも影響している傾向が見られます。各学校では、教員と学校司書が連携し、児童生徒が自ら図書館に行ってみると思えるように、意図的、計画的に働きかけることが大切であると考えます。

お問合せ先
教育委員会事務局教育課程推進室長　　関口　和弘　　Tel 045-671-3723